

(様式 1－3)

矢吹町定住緊急支援事業計画に基づく事業等個票

平成 25 年 7 月時点

※本様式は 1－2 に記載した事業ごとに記載してください。

N0.	2	事業名	子ども元気復活交付金学校施設遊具更新事業		事業番号	A-1-2
交付団体		矢吹町	事業実施主体		矢吹町	
総交付対象事業費		28,800 (千円)	全体事業費		28,800 (千円)	
事業概要						
矢吹町内 4 小学校の校庭内遊具、鉄棒、ブランコ、はん登棒、ジャングルジム、すべり台、バランス棒、肋木、雲梯、シーソー、アスレチック、回旋塔、グローブジャングル、ハングリングの更新をします。 矢吹町では各学校施設に遊具を設置し、子どもの運動機会の増加及び体力向上を図ってきましたが、平成 23 年 3 月に発生した原発事故により子どもが外で運動する機会が減り、さらに事故以前にあった遊具で運動することを懸念することなどによって、遊具で運動する子どもは大幅に減少しました。また、校庭には表土除去等により排出された線量の高い土砂を一時保管しており、その近辺の遊具は使用できない状況にあります。 第 5 次矢吹町まちづくり総合計画及び矢吹町復興計画では、教育環境・教育施設の充実の施策による学校施設の美化・整備事業として、放射能汚染された遊具の更新を実施しており、同時に矢吹町除染計画による除染も進めております。 本件事業により学校遊具の更新を行い、休日には一般開放を行うことにより、地域全体の子どもの運動機会を増加させ体力の向上を図ります。また、遊具使用の促進として春と秋の年間 2 回、矢吹町の「ジュニアリーダー」による運動方法の講習会を行い、具体的な運動演習による運動意欲の向上を図ります。						
※当該事業を復興ビジョン、復興計画、復興プラン等に位置付けている場合は、該当箇所及び概要も記載してください						
人口の流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係						
福島第一原発の原子力災害の脅威により矢吹町の人口は流出しており、発災前に 18,407 人（H22 年国勢調査）だった人口は 17,981 人（H25 年 4 月 1 日現在）と、約 2 %の減（▲426 人）となりました。そのうち 141 人が町外及び県外へ避難した住民となっています。（H24 年 10 月現在） 児童生徒数については子育て世代の流出により、H22 年の 1,560 人から約 7 %減となる 104 人の減少となりました。（H25 年 5 月現在） 原発事故後、子どもたちは校庭等の屋外にて運動する機会が減少しており、体を動かすことが少なくなってきました。学校施設遊具の整備をすることで、子どもたちに安心して遊具を使用してもらい、運動機会を促進することにより、流出した 104 人の児童生徒数以上の子どもたちの定住化を目標とします。また、保護者や利用者に対してアンケートを実施し、事業の効果を検証していきます。 当該事業は H25 年を事業期間としておりますが、早期着工を図り、子供が住みやすい定住環境の整備を実現していきます。						
※効果促進事業である場合には以下の欄を記載。						
関連する基幹事業						
事業番号						
事業名						
交付団体						
基幹事業との関連性						